蓬門

蓬田村公民館報
〔蓬　門〕
第 25 号
発行所
青森県東津軽郡
蓬田村公民
印刷所
蟹田印刷所

玉松台上ゴルフ用芝生化す
公民館運営委員の手によつて

玉松台上が戦后馬力大会等の催しで、台上が荒らされておつたので、歴代村長が頭を痛めておりましたが、財政の関係から中々整備の段階に至らなかつたが、三十八年度二十万の予算の裏付けができ、台上ならび海岸も整備、同時に海水浴場の設置もみたわけです。

昨秋農協ブルで整地し、今春早々着手の運びとなつたが、かんじんの種子の入荷が遅れ、梅雨期をねらい去る六月一日実現した。

当日耕うん機二台を借上げ公民館運営委員と遺族会代表、八戸会長等早朝より現地におもむき、台上整地肥料散布

古城の沼畔の桜の手入れ等それ〴〵分担作業を進めた。

施肥および播種方法は、蟹田地区農業改良普及事務所岩舘技師の指導を受け播種したが、ゴルフ用芝生の種子なのであまりにも小粒で播種に困難をしたが、一同入念に、時間をかけ播種を完了、葉しばや松の枝で覆土その上にローラをかけ、かるくチン圧して全作業を終了した。

その后、小雨があり順調に発芽し、予想以上の発育振りである、今秋までには緑のジュウタン化するのもうたがいないことでしよう。

公民館としてはよりよく美しくするため、台上及びその附近の清掃運動を推し進めておりますので、一般の方々もこの運動に参加していつ訪ねても気持のよい聖地にしたいものだと公民館長は語つている。

青森行政監察局からのお知らせ
長雨に泥の海となる県道

あなたや、あなたのお知り合いの中でつぎの話に似たようなめにあつている方はありませんか。

これは、道路が悪くて道路縁の人家や田畑が被害をうけていたという話です。

山辺さんの家は、県道ぞいにありましたがこの県道は附近の川からトラックが砂利をのせて頻繁に往復するため雨の降つたときなどは路面がぬかり、部落の人々の歩行が困難となるのはもちろん、道路に面した人家は泥水の飛沫を浴びるので戸を開けられず、また田へは道路が崩れ落ちて耕作に困る有様でした。

そこで何回となく町役場を通じて県の土木事務所に改修してほしいと申入れましたが、一向になおしてもらえそうもないので、最寄の行政相談委員さんを尋ねてあつせんを依頼しました。

行政相談委員は直ちに山辺さんと二人で現地を調査して、その状態を確認してから行政監察局にその旨報告しました。

もし、この話のように役所の仕事に関係のあることについて、何か疑問や不満などお持ちの方は、遠慮なく行政監察局か行政相談委員にお申し出下さいまいまの話はつぎのように解決されました。

報告を受けた行政監察局は、早速県に対してその旨を連絡あつせんしましたところ、土木事務所は県の指示により翌日係員を派遣して現地を調査した結果改修の必要を認め、改修工事計画をたてて工事に着手しました。

このように、行政監察局も行政相談委員も、いわゆるお役所仕事に関係のあるご不満は、何でも無料で、しかも秘密を守つて相談にのつてくれます。明るい生活をおくるため大いに利用いたしましよう。

当市村の行政相談委員の住所氏名は次の通りです。

蓬田村大字蓬田字汐越三五
清水専造

村税についてのお知らせ
役場財務係

一、固定資産税の期について
地方税法の一部改正により、昭和三十九年度固定資産税の納期が次のように正になりました。

第一期五月一日～同月三十一日まで
第二期十月一～同月三十一日まで
第三期十二月一日～同月二十五日まで
第四期翌年二一日～同二十八日まで

二、国民健康保険税の納期が次のように改正になりました。

第一期七月一～同月三十一日まで
第二期九月一～同月三十日まで
第三期十二月一日～同月三十日まで
第四期十二月一日～同月二十五日まで

三、軽自車動の登録番号の更新について

四月二日をもつて原動機付自転車（一二五CCまでのもの）の登録番号が更新になりましたので、まだ更新していない人は至急役場でナンバーの切替をして下さい、従来のナンバーは無効ですから車の運行はできません。

◉ お願い

村内で販売する煙草代金の内（一割五分二〇本入一箱につき七円八八錢四厘）は煙草消費税といつて村の収入となりますので努めて村内で買つて下さい。

昭和三十八年度までの村税をまだ収めていない人は一日でもはやく完納して明かるい村づくりに御協力下さい。

心ならず!! 遺感千万
玉松台芝生、バイク乗り廻す者あり

多額の費用と労力をかけ、台上を整地、芝生を植付した直後、（発芽前）なぜそのようなことになつたので頭の痛いわけ、その后入口になわをもつて厳重に区切つたが、そのなわを切り再三侵入しておるのには全くの驚きだ。

あまりに反省の色なく、その旨警察に依頼し厳重監視し発覚の際は非常措置に望む考いである、何卒一般の方々も、心なき不心得者の監視に協力願います。

農事報

◉ 病害虫防除、適期に、よく普及員共咨の指導を受けながら生産価はちつと高くなつたが生産しとアブ八とらじ。一Kでも取るよう努力しよう。

◉ 病害除前にアゼの雑草を刈りましよ。

雑草は害虫の温床だ。防除作業もすやい。

◉ 水深にして稲を伸ばそう。小さものには、チッチャい穂が出る。

◉ 秋蒔麦、稔落ちさせぬよう。

蓬田村連合婦人会
新役員紹介

去る四月十九日、広瀬小学校において、三十九年度総会の際、左記の通り新役員が送任されたので紹介する。

会長　坂本清江
副会長　武井きの
〃　小野しさ
会計　張間きよ
〃　小鹿うのこ
班長　坂本とこ
〃　張間きせ
〃　八戸そわ
〃　津島なほ
〃　畠山みさを
〃　越田やゑ
〃　天内あき
〃　久慈みえ

全国更生保護大会へ参へ会例てし

保護司　清水専造

私は、去年十一月七日、八日両日東京都比々谷公会堂に於て皇太子同妃殿下の御臨席を仰ぎ盛大に開催されたその概況次の通り館報を通じお伝へ申上げます。

六日十七時二十五分（いわて）にて上京、上野六時五十四分着いた、一行と共に朝食を済せ出立に当り大雨に会い中々止みません、ハイヤーにて会場へ到着せり遠方から大会出席者百人余り居りました。

大雨の為め二時間も早く開門され一同はホットした。

午前十時開幕と共に皇太子同妃殿下には大会長木村篤太郎氏の御先導に依り参加者全員の起立万雷の拍手の御奉迎に応へられつゝ御ら入場御着席と共に司会関東地方保護連盟常務理事栗本俊道氏大会を宣せられ、大会副会長白根松介開会の辞を述べた後更生保護事業に関係物故者に対する慰霊の黙禱を捧げられました。

ついて式典に移りピアノ伴奏により君が代斉唱続いて木村大会長式辞を述べた後功労者の表彰を行ない法務大臣からは浜田朝好氏（徳島）をはじめ六十七名、其の他それ〴〵栄ある表彰授興された。

ついて皇太子殿下から優渥なるお言葉を賜り之に対して木村大会長より更生保護事業関係者代表して奉答の辞申上げた。

奉答終ると皇太子同妃殿下には木村大会長御先導により会場を御退場になられた参加者起立拍手をもつて両殿下を御送り申上げました。

皇太子殿下の御言葉

本日第十二回全県更生保護大会に臨み皆さんと親しくお会できましたことを喜ばしく思います。

犯罪のない明るい社会の建設は国民等しく念願する所であります。

この目的達成のため社会奉仕の精神をもつて日夜更生保護事業に従事し貢献しておられる皆さんに対し深く敬意を表すものであります。

特に次の時代をになう青少年の非行化が憂慮されている時この機会に皆さんの日頃実践を通して得られた尊い経験のうえに更に衆知を集め検討を尽くされて今後一層の成果を収められるよう切望致します。

式典が終了し小憩の後十一時二十分総会に移る。

司会者より総会開催を告げ最初に大会長準備委員会事務局長大谷栄氏より本大会準備経過並に昭和三十七年九月札幌市に於て開催された大会採択事項処理結果について詳細にわたつて報告行なはれた、つゞいて大会長木村篤太郎氏仮議長につき、総会議長選出議長平尾東栄（東京）副議長広瀬樽治（大阪）垣見八郎エ門（東京）、辻松太郎（香川）亘理琴（宮城）四人就任、挨拶後、議案一括上程研究協議を円骨に行うため五つの部会を設けて研究討議することを諮り満場異議なく各部会の議長及副議長指名された。

○ 第一部会（青少年犯罪ないし非行防止する為め保護司および保護者は関係団体とどの様に協力する事が望ましいか。

○ 第二部会　保護観察の効果を高めるため保護観察対照者との接触を一層緊密にするにはどうすればよいか。

○ 等三部会　保護観察に於て一層効果的に社会資源を活用するにどうすればよいか。

○ 第四部会　更生保護会における被保護者に対して自助の責任を高めさせる為にどの様な生活指導を行なえば良いか。

○ 第五部会　更生保護事業に於る国民参加の理想を具現するためにはどの様な方策が考慮されなければならないか。

私は第一部会へ参りました。議長ら協議の進め方についての説明あり、後各都道府県連盟から推せんされ九名の特別研究員はもちろん一般会員から極めて活発に意見が述べられ終始熱心且真剣な研究協議会であつた。

この間法ム省から保護恩赦課長初め各助言者からは随時に適切な助言あり午後四時十五分盛会裡に協議会終了した。

こゝに研究の内容を要約すると本問題は関係機関団体との協力関係のあり方に関するものと活動のあり方との二つに分類すること、出来た協力関係あ

り方の問題については現状と将来への希望と云う観点から協議された。

1　保護司及保護会は地域に於ける犯罪予防活動の中核体であるとの自覚のもとに常にその活動の主体性を堅持して青少年の非行防止のため地域の関係団体との関係を確立すること。

2　保護司及保護会は関係機関団体との協力関係を円骨にする為には、それ〴〵機関団体の持質とその趣旨目的を十分理解し尊重する事。

3　青少年問題協議会を初め社会福祉関係教育関係その他婦人関係者等青少年保護育成の問題に関心を持つ各種団体には進んで代表者を送り青少年犯罪ないし非行防止の為積極的に意見を述べる事、最も近親の関係ある更生保護婦人会及びRBS会に対し従来よりも一層深い理解をもつて其の育成強化のため積極的に援助する事等の点が強調された。

次に活動のあり方の問題については先づ現在各地で保護司があるいは保護会が中心となつて実施しているさまざまの実例から紹介された。

例へば町村単位に青少年を守る会をつくり青少年の健全育成と非行防止についての地域住民の関心を深めた例

婦人保護司が中心となつて（私達の子供は私達の手で）のスローガンのもとに地域の浄化活動に効果をあげた例

愛の図書寄付贈進運動を年間を通じての運動として地域住民の理解と関心を高めた例青少年の慰労を激励するため映画館を一日開放した例　青少年励まし勇気つけるため保護司会の名に於て善行表彰を行た例　家庭内の人間関係の整理、青少年の躾のあり方非行青少年の早期発見について家庭婦人に呼かけて成功した例　其の他極めて多くの事例を体験として発表されたが之等の実例を通じて強調されたのは

①　保護司保護会が行う活動は地域住民から喜んで受け入られた地域浄化の為め直接的に役立ものである。

②　具体的でありかつ実践的な運動である。

③　いわゆる線香花火に終るものでなくたゆみなき不断の努力によつて継続発展させ直に地域に根ざしたものとする事。

④　初めから大規模のものを望まず小さな区域から出発して積上げ方式によつて漸次大きな組織機関的運動に盛り上げる事。

◎　関係機関団体との横の連絡を緊密にして其の協力支援を得る事に努めると同時に地方自治体との連絡関係協働態の態勢を強めて地域ぐるみの犯罪予防活動とする等であります。

付託された研究課題を通じて最大の関心事は地方自治団体との協力態勢の確立問題であり保護司及保護会の行う活動に対する地方自治体の一層の理解と協力を要望する声は高かつた。

□　農繁期共同作業炊事三題

□　あすなろ生改共同炊事十五戸。七十四人。八日間。炊事係二人。昼夜食。

蓬田第一班。となり組六戸。三十五名。九日間。炊事係一名。昼夜食。共同作業面積九十四反。

蓬田生改クラブ共同炊事八戸。四十五人。十日間。炊事係一人。昼夜食。共同作業面積二〇〇反。

交通事故をなくしよう

よつぱらい運転、無免許運転などによる、引き逃げ事故が非常に多くなつております。

尊い生命を交通事故によつて失うことのないよう、皆なで力を合わせ、明るい、楽しい、夏を送りましよう。

水難事故のないよう皆なで注意しましよう。

運転者には酒をすすめないように子供を道路で遊ばせないように

還生の奇跡

坂本　増吉

人間一生のあいだ、さまざまな事がありまして遂には死ぬ事で終りをとげて、近隣の人々に長くて七十五日うわさされ、惜まれて総べてがこの地上から消える事になる。

自殺者や詩人の一部の人が「死も亦楽しからずや」等、云うてうそ八百ならべて自己の気持を無理に表現するが、この地上に人間として生を受けたものゝほとんどが死に対して恐怖をもつものである。

然るに過去に於ける日本の戦争には、極一部の指揮者により極端な祖国防衛だとか、愛国心だとかの名をもつて計画的に、一般社会生活からカク離し、宗教的な強制教育を施し、次代をになう為に生れ出て来た清潔な、若い尊い身命を人間魚雷だとか、又は片道特攻隊だとかで、全く冷静では考いられない暴挙を平気でやり、末長い青年、少年にばかり押しうりした当時の戦争指導者に深く義憤を感じ乍、一言も弁解出来ずに次々に死んでゆく有さまは現地にいた人々なら誰しもが感じ、「明日は我が身かな」と一日を一きざみに生きぬいた数多くの中に、政五郎も亦運あつてその苦しみに絶えてここまでやつと生きぬいた。

十九年十月　政五郎達は司令部の命令で一つの基地へ止まる事になつた。

このころ一地点に、一ケ月と長く止まる事なく転々と敗戦の基地から又基地へ、数多くの戦友と愛機を消失し乍、新しい後方の地へと引き下がる事を最大の仕事として忙がしく又、その要領にも次第に馴れて来たが、実際は身体よりも精神的な打撃の連続だつた、

この地はセレベス島の中央に位置し「アッピー」と云う飛行場で、附近には余り現住民も住んでなく、都マカッサル市が近いが交通不便な高台の平地で余り手数をかけずに滑走路が出来たようで、上空からも飛行場らしく見えなく一面ビロードのような緑地で平和郷だ、セレベスはボルネオに次ぐ石油の産地で、開戦ヒキ頭海軍が「メナド」へ落下傘部隊を降下させ無傷でその工場と都を手に入れた有名な資源の地で住民も南方中一番日本人に似ていて、親日的なところときいている。

政五郎には「最早やくるころあいだな」と思つていたのが、この地へきて一週間目に待つものが遂にきた。

今度は重大命令である。

情報によれば、三隻敵部隊はハルマヒラ群島に上陸、想定確実らしいと云う。

ガレラと言う、数ケ月前政五郎達がニューギニアから十日ばかり休養にいつた事がありそこには美しい噴火山あり、湖あり、密林からの眺めも実に美しい、湖では小ブナを釣り水泳もするし分な休養をとつたものだが、雨のは湖の主大ワニが出る話をきいて政五郎達はさつぱりゆかなかつた

そんなとき敵が、大量に上陸するなんて少しいじやないか等、将兵達が話合いるまに艦隊が六十隻だときいてくりもしあきれもした政五郎達の地は、滑走路も何処もみな之生にうわれ土煙り一つたたないこと等、彼の整備には今迄の何処よりも楽で実の心配なくここなら久垢りだし一く住みついてもよいし百姓してもよいところだ」と思うほど平和でもある地なのです。

ある夜、宿舎へ帰ると「夜の点呼は全員集合」がることを知らされる、時だたち、半ボンにランニング姿の将兵は、だれ〴〵なたか階級もわからぬ偶に一人の者の持つ一本のローソク灯中心につこれの如く集つた、部隊長は土佐堀川中佐である、彼はからだが小さいが特徴のある鋭い目と豊な自信のコールマンひげをはやした名士ともに立派な腹も腕も人並秀れた男つた。

久し振りに会う将兵と一段高い罐詰の光りの部隊に夜空に響けとばかりの敬礼し訓示まつた。

訓示「挨拶抜く、わが敵は全世界の大国総べてあるが過去においてイギリス、豪州と戦斗し今やアメリカは至近の距離ある、当初我々が思つていたように弱いものでないことを身をもつて学は認識したであろう。

彼等は大量物資だけでなく、勢に乗じて冒険と並ぶ名誉のため大量に志願する学生軍ことの方面に集中していることをある力頭らきいている、命に依りこの正面位置したわが隊も、今はひん死の重傷であるが、たとい一機になつても戦わなければならぬ、味方の輸

撃隊は名の通り敵陣に趣き巨大な弾を命中さすのは最大のほまれである。

わが部隊はもはや旅団から脱しこの重任に当るべくマニラの南方航空軍司令の直カツとなつた。

今更諸君は驚かぬであろうが、あすは全機攻撃の命を受けている、であるかよく整備し健康を害さぬよう早く休んでもらいたい終り」。

久しく聞かなかつたこの訓示に百名足らずの将兵は暫らくシユンとなる、その長いあいだ差し上げていた薄暗い一筋のローソク灯も部隊長とともに消え去るとガヤ〴〵も遠く近くの、各自の宿舎へ消え、総べてがうせたように再び暗の静かな世界にもどつた。

明けて十月七日予想通り敵は日本軍守備隊必死の抵抗を俳しその地へ、上陸中だとのこと、この日の出陣は六機、政五郎達は一番機薄暮攻撃敢行の偵察兼爆撃任務だと伝達さる、午前中は天気がよかつたが午后となり薄曇つてきたが気象班では攻撃に差支いないとのこと、宿舎と飛行場は四粁あるが宿舎本部に既に歓送会の諸準備に多忙らしくよいにおいが風にのつてくる。

たれの云い付けかこのごろでは出陣者全員に本部で茶腕ムスと少しのお酒で乾杯する馴らわしとなつた、なんだか本部に一人浅草のジユラクに居つた実に腕のよいコツクが軍曹で転属してきたからだと云う。

今迄に政五郎も、数回頂いたがなんだか今度だけは最後のような気がして何時ものような食欲がわいてこない彼等のテーブルには、真新しい手拭に第七神風特攻隊とまん中に赤い日の丸が染め抜いたのを一本づつおかれているしこのせいだかなアとチラリ思つた。

ほどなくして編隊長は陸士五十三期福田中尉と部隊長が現れ、このたびは特攻である事を強く云うふくめられて、武運を祈り乾杯となるこれはほんの型通りの儀礼にすぎないが、みんなのほほには緊張の色かくしがたく、中尉以下四十四名の飛行帽には既に、部隊初つて以来の特攻鉢巻が「キリリツ」とられトラックの人となる。

然し政五郎は「ならばなれよと」大して気にかけず何時もの通り、両側を走る椰子林トラックの前を横切る美しい小鳥「なんとすばらしいところだろう」と前の人につかまりよもやま話で賑し各機にそれ〴〵分散された。

そして政五郎達の機長は早速地図を拡げ大体の地点と時間と行動をみんなに知らせる、これは五機編隊より三十分前に出発しなければならないからだつた。

午后三時指揮所の拡声機は「集合各機は搭乗区分により、出発順位一列横隊に整列せよ」とどなる、政五郎達は真先である、機長は奈良の天理大学出の安里予備少尉、次は政五郎、林曹長、無線永沢軍曹砲手後藤軍曹、前方射手兼爆撃手小山曹長、後方射手服部伍長の七名で電波探知手は乗らなかつた。

堀川部隊長は自ら一升ビンに清水一杯こめたのと一つの杯をもち、中央に立ち軍力を引き抜き最後の敬礼かもしれぬ福田中尉の投げ刀の終りに答礼し、次々と三番目に政五郎へも水盃をもたせ「しつかりやつてくれ」と云い乍かなり時間をかけて一人〴〵の乾杯と励ましをくれた、そして受けた将兵は百粁爆弾万載して待機する愛機へとかけ去つた。

かくて「三時二十分一番機出発準備始動」の命が拡声機から流れる、滑走路の西側には見送る将兵、政五郎はきを失せず愛機、呑龍の最後の活躍だと信じ各部の点検終り機上の人となり始動油圧計、回転計並に各温度計の機能をたしかめた。

やがて全員自分の席につき点検終了、三時三十分出発の合図に物すごいどう音をたて乍両側で見送る戦友達の略帽のヒラ〴〵ふる中を車輪のブレーキを一挙にはづしエンジンレバー全開勇躍一機だけ「お先に」と手をあげ飛びた つた、中央には機長、政五郎、林とガソリンを半載したが爆弾だけは万載したエンジンは極めて快調に離陸し、愛機の頼母しい姿に互の顔も至極万足そう、羅針盤を一路目的地へ向け六十五度、高度四千米へと上昇辺りにたなびく下層雲も夕あかねに、機影は御光のさすように美しく下界に投げる。

全くすばらしい眺めだ、政五郎はこれで死んでもなんの名残がない、「でも戦争でなければ呑気な旅行に」等日頃に思つたことのないことを思つたりして恥しくなつてふと、隣りを見ればみんな白鉢巻をとつているので政五郎も真似てとり尻にしいた。

各座席には全部に通ずる音響器と各人に伝声管があり、それで命令を受けるようになつている。たゞ無線手だけがすぐ後方にいるのでなまの話で通ずる電波管制でいつもは電話無線を使わなかつたが今日は特に使うそうだ、政五郎達の住務は、爆撃編隊の三十分前に敵の上空に達しその情況を直ちに彼等に報告し最大の戦果を挙げるように、後にはその編隊に伍し一諸に爆弾を投下することだつた。

前方の小山曹長は眠鏡をのぞき「対速度三六十粁、ヒン流なし」と機長報告する。

基地から目的地へは九五十粁おおよそ二時間と四十五分位、機長は四ッ折にたたんだ地図にしきりにコンパスをあてゝいた、外は赤雲がちぎれ時折り二十二米の翼上をすごい速さで過ぎ去り又飛びこんでくる、何時か自動操従機へ切り換えている。

調子良好、たまに入道くもをさけて飛ぶが敵機の待ち伏せ見当らず少しく張り合いが抜ける、これ迄しきりに基地と連絡していた前田無線も何時か居ねむり、政五郎、林も敵陣へ乗り込む事を忘れたかの如く上のマブタが下がる、機内の暖房と気圧の薄さのせいであろう。

後方の地上では正に赤く大きな夕日が没なんとするころ離陸後二時間はたつた、最早敵上空けん内に入る、機長は赤い小さなボタンを押し全員に警戒勢を命じ配備を作した、このごろ敵の夜戦機は実に優秀だときいているのでうつかり出来ない、雲が少くなつたが既に赤い大きな大陽は没し、下界は紫色濃く視界が極度にせまくなつた、機長は無線手に向い「至急基地へ連絡せよ」と大声でどなる。

刻一刻、てき地へせまる、前方のうすい黒影は目ざすてき艦隊のガレラ湾の手前の山だ。

林はそつと桿を目操機からはづして高度をさげ始め政五郎はガソリン新タクへと切り替える、射手はそれ〴〵自分の機関砲へしがみついた、その時、盛にキーを打つていた無線手が政五郎の肩越しに「基地と連絡がとれました編隊は途中雨の為引き返し、攻撃中止せよ」との事です。

以下次号